

幸手市

郷土資料館ニュース



開催中の特別展

オルガンと幸手町の郷土誌

—高橋浅次郎が遺した資料—

令和4年1月30日(日)まで開催中



高橋家に伝わる大正末～昭和初期頃に作られたと考えられるオルガン

幸手尋常高等小学校の校長を務めた高橋浅次郎が遺した資料を中心に、郷土誌編さんに関する展示をおこなっています。



高橋浅次郎の郷土誌編さんに関する文献資料も多数展示しています

イベント情報

ものづくり体験「^{まがたま}勾玉づくり」

幸手市青少年相談員のお兄さんお姉さんがやさしく教えてくれます。ぜひご参加ください！

日時 令和4年1月30日(日)
午前10時～午前11時30分

場所 郷土資料館 講座室

対象 市内小学1～6年生

※3年生以下の場合は保護者の同伴が必要です

定員 20人(先着順)

参加費 無料

申込期間 令和4年1月12日(水)～26日(水) 午後5時まで

お申し込みは郷土資料館へ ☎47-2521

好きな形の勾玉を作ろう！

紙ヤスリで削るだけ！



ヒモをとおしてアクセサリに！

※新型コロナウイルス感染拡大状況によって、内容等は変更する場合があります。

裏面につづく⇒

埋蔵文化財の世界

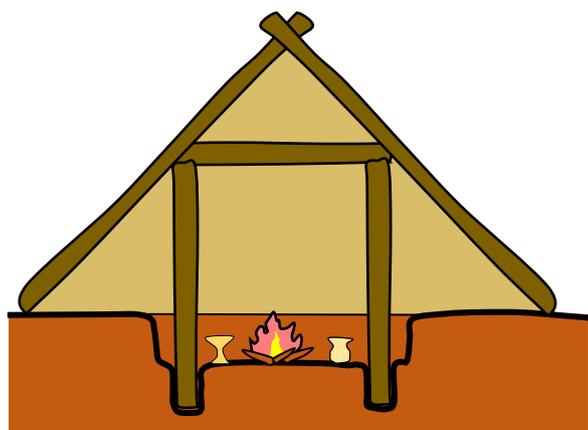
「埋蔵文化財（まいそうぶんかざい）」とは「地面に埋まっている文化財」を指す言葉です。埋蔵文化財がふくまれている土地のことを一般的に「遺跡（いせき）」と呼んでいます。

幸手市内では24ヶ所の遺跡が指定され、そのいくつかで発掘調査がおこなわれてきました。私たちの足もとにも埋蔵文化財の世界が広がっています。

今回は、このような埋蔵文化財がどのようにできるのかについて紹介します。

～埋蔵文化財ができるまで～

①昔の人びとが家をつくる

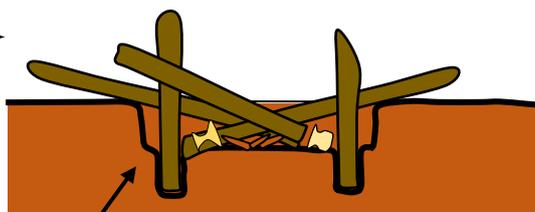


地面に穴を掘り家をつくる

たてあなじゅうきよあと
竪穴住居跡
の場合

②家が使われなくなる

時間がたつと…

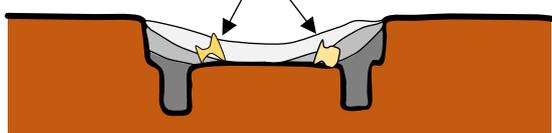


柱は抜き取られるなど、残らないことが多い

さらに
時間がたち…

③穴が少しずつ埋まっていく

土器なども一緒に埋まる

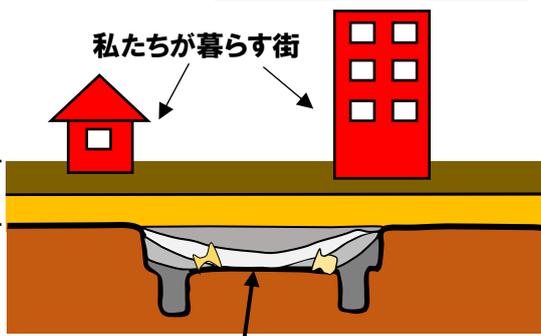


長い時間を
かけ堆積(たいせき)した
地層(ちそう)

数百年以上の
時間が流れ…

④土地全体に土が積もり、 現在の地面ができる

私たちが暮らす街



埋蔵文化財となる

地中に埋まった竪穴や土器などが埋蔵文化財となります。現代人がおこなう工事などが埋蔵文化財に影響を与えてしまう場合は、事前の「発掘調査」によって埋蔵文化財の記録を残していきます。

幸手市郷土資料館

住所：幸手市大字下宇和田 58 番 4

電話：0480-47-2521

開館時間：午前9時から午後5時

休館日：月曜日（月曜日が休日の場合は翌日の火曜日）

郷土資料館の詳しい情報はこちらでご確認ください。幸手市ホームページにアクセスできます。

